

平成 28 年度 経済学研究科入学試験

外国語科目（日本語）

以下の全ての問題に答えなさい。

問題一（ ）に入るもっとも適切な語句を選び、カッコ内に記入しなさい。

- (一) 十二月に入り、クリスマスの飾り付けをした店も（ ）見られるようになってきた。
1 ぶらぶら 2 ちらほら 3 キラキラ 4 あくせく

- (二) 「貯蓄」の「蓄」は「（ ）る」と読みます。
1 ため 2 ちく 3 たたえ 4 たくわえ

- (三) 身内が引き起こした問題だったためか、その処分はかなり（ ）ものだった。
1 てあつい 2 なまぬるい 3 あさましい 4 よそよそしい

- (四) 田中さんは酔うと、つい（ ）が出てしまうところがある。
1 元 2 根 3 本 4 地

- (五) まだ食べられるのに捨ててしまう外食産業の廃棄（ ）が大きな問題になっている。
1 トラブル 2 ダメージ 3 コスト 4 ロス

問題二（ ）に入るもっとも適切な語句を選び、カッコ内に記入しなさい。

- (一) 彼はお酒を飲（ ）ばかりで、あれでは身体を壊すのも無理はない。
1 んだ 2 み 3 んで 4 まん

- (二) 京都を旅行（ ）今の季節はちょうどいいでしょうね。
1 するなら 2 すると 3 すれば 4 したら

- (三) 進学する（※）（ ）、就職する（※）（ ）、英語への苦手意識はないほうがいい。※同じものが入る
1 にせよ 2 なり 3 わ 4 たり

- (四) 分析にあたって、以下の条件については無視できる（ ）とする。
1 の 2 よう 3 もの 4 かたち

- (五) 海外旅行に（ ）（ ）にも、お金がないよ。
1 行きたい 2 行こう 3 行って 4 行くため

【次のページに続く】

受験番号
ME

問題三 () に入るもっとも適切なひらがなをカッコ内に記入しなさい。それぞれの字数は1字か2字である。

(一) 「待つ」の〈動作する人を高める〉尊敬表現は「お待ち () ます」です。

(二) 電車の中で、鈴木さん () () かばん () () 誰か () () 盗まれたそうです。

(三) せっかく東京まで来たので、古本屋をいくつか回 () () て帰ります。

問題四 次の各文を【論文・レポートに適した書き言葉文体】に変換しなさい。解答は枠内に全文を書きなさい。

(一) なんで都市部への一極集中がどんどん進むんでしょかね？

(二) 他人のデータを自分のもののように書くことはイチバンやっちゃいけないことです。

(三) ゼミではいろんな立場の人がいっぱい意見を言うんで、とっても楽しいです。

【次のページに続く】

問題五 問題文は、石井淳蔵『ビジネス・インサイダー創造の知とは何か』（岩波新書・二〇〇九年）の一部分です。この問題文をよく読んでから、問一と問二に答えなさい。

何かと何かが出会って、一つの価値が生まれる。それとともに互いの姿が変わる。両者にとつて未知の姿が両者の出会いの中に現れる。こうしたプロセスは、コミュニケーション・プロセスとして把握することでその性格をはっきり理解できる。ただ、一点、留意しておきたい。それは、ここで言うコミュニケーションとは、話し手と受け手との間に共通するコードがないままに行われる、そうしたコミュニケーションを指しているということである。

「共通コードがないコミュニケーション」という考え方は、伝統的なコミュニケーション概念にはなかった考え方だ。普通は、コミュニケーションには、あらかじめ発信と解読のルールが定まっていると理解されている。モールス信号や手旗信号は、一番わかりやすい例だ。しかし、その種のコミュニケーションは限られた範囲でしか成立しない。

共通したコードを前提におくことはできないコミュニケーション、そうした新しいコミュニケーション概念を、安富歩(二〇〇六)は次のよう特徴づけて言う。

「『わたくし』に事前の意図があり、それがなんらかの行為へと変換されて『あなた』に渡され、それを『あなた』が解釈する、というコミュニケーション像は不十分である。まず、場があり、そこに行為が生成されると同時に意図と解釈が生まれる。そして、意図と解釈の生成と共に、『わたくし』と『あなた』も生成する」。

わかりにくいかもしれないが、主張は明瞭だ。コミュニケーションに先立って発信者の「意図」があつて、その意図が何らかの伝達行為を通じて相手に伝わり、それとして解釈される。これが、共通したコードをもった、私たちが通常イメージするコミュニケーションの姿である。

【次のページに続く】

しかし、安富は違うと言う。

まず、コミュニケーションの場がある。そこで、言葉でも仕草でも、意図があるうがあるまいが、何らかのコミュニケーション行為があり、そこで意図と解釈が同時に生まれる。こういうのである。奇妙な感じがするかもしれないが、こんな事例だとわかりやすいだろう。

お父さん「雨が降ってきたようだね」

お母さん「行くの、やめましようか？」

お父さん「……そうしようか、……」

お母さん「ええ」

テレビのドラマに出てきそうなシーンだが、解説すると次のようなシーンになる。お父さんとお母さんは、どこかへ出かける予定がある。そして、朝食をとっている。食卓で向かい合わせに座っている。そして、お父さんは、ふと窓の外を見て雨が降ってきたのに気づく。そして、そのことをつぶやく。これが始まりだ。お母さんはそれを聞いて、「お父さん、出かけるのが嫌なんだ」と思う。で、「行くの、やめましようか」と言う。お父さんは、それを聞いてちょっと驚く。「そういうつもりで言ったわけではないのに」と。しかし、「お母さんは行きたくないのかも」と、逆にお母さんに配慮して、「じゃあ、そうしようか」と答える。お母さんは、「やはりお父さん、出かけたくなかったんだ」と思っとうなずく。

と、まあこんな風景である。私たちの日常生活においてもこのようなコミュニケーションの行き違い、そして行き違っても一つの秩序が生成する、こうしたことは多々経験していることと思う。これが、安富の言う「コミュニケーション」の姿である。短い会話だが、あらためて考えてみると、不思議なことがいくつか起こっている。

第一に、二人にとって意図しない現実が生まれている。お父さんは、別に「出かけたくない」と思って、雨の話を切り出したわけではない。お母さんは、行くつもりにしていたのだが、お父さんの言葉を聞いて、「お父さんは出かけたくないのではないか」と配慮する。そして、お父さんの気持ちを打診する。お父さんは、その打診を、お母さんの行きたくない気持ちの表れだと思っ、受け入れる返事をする。二人とも、話を交わす以前は「出かけたくない」という意図はまったくなかったのだ。しかし、現実には、出かせないことになった。両者にとって、当初まったく意図しなかった現実が生成したわけである。

第二。メッセージの意味は、意図によって決まらずに、後に続くメッセージによって決まる。お父さんが「雨が降ってきた」と言ったが、そのメッセージは、お父さんの意図としては、たんに天気が変わったことを口に出したただけなのだ。だが、お母さんは、そのメッセージを聞いて、お父さんの「出かけたくない」という意図だと察した。お父さんの意図がどこにあったかとは独立に、お母さんはお父さんの意図をそう解釈し尋ねた。それを受けて、お父さんは、同

じように、お母さんの本当の意図がどこにあったかとは独立に、お父さんは、それがお母さんの意図だと解釈し応えた。そして、さらに、お母さんは、お父さんの「そうしようか」の言葉を聞いて、自分の解釈が誤りではなかったことを追認した。

いずれの発話も、その発話を受けた人の発話によって意味が定まる。お互いの意図を見通すことができる神様の立場でこの二人の会話を見てみると、ことごとく相手の本当の意図を誤解した、誤解の連鎖であることがわかるはずだ。コミュニケーションにおいては、後の発話が前の発話の意味を定め、前の発話が後の発話の前提となる。自分の言ったことを自分(の意図)で根拠づけることはできないのである。

第三。この会話の中から、お互いに気遣いをもった大人の姿が浮かび上がってくる。この会話の中で、大人たちも、きつと相手の気持ち(つまり、「自分のことを気遣ってくれているのだな」という相手の優しい気持ち)が伝わったのではないだろうか。何より、互いに「自分は、相手のことを気遣う人格の持ち主として振る舞おうとしている」こともわかるように思われる。

このことは、全然、違った状況を想定するとわかりやすい。お父さんが「雨が降ってきた」と言ったときに、お母さんが、居丈高に「出かけたくないのなら出かけたくないよ、ハッキリ言いなさいよ」と答えたでしょう。それに応えて、お父さんも、「そんなことはないよ。じゃあ、出かけよう」とちよつとアタマに来て答えるかもしれない。この場合は、いわば両者にとって最初の意図どおりの現実が生まれたことになる。だが、先ほどの「相手を思いやる人格」は影をひそめて、とげとげしい人格が生まれてしまっている。つまり、先の穏やかな会話のときとは違った「私」と「あなた」が、このとげとげしい会話の中で生まれている。

二人が会話を始める場があり、そこで言葉が交わされる。発話された言葉は、通常のコミュニケーション概念だと、モールス信号や手旗信号のように、記号や言葉は意図を表現し、それがそのまま意図どおり伝わって解釈されるはずだと考えるところだ。その理解の下では、先に述べた対話シーンは例外的なコミュニケーションであつて、どきどきそうしたコミュニケーションの不都合が起こるだろうが、通常はそうした不都合は起こらない、あるいは起こっても回復可能だと考えることになる。

そういう解釈もできないわけではないが、あまり説得的ではない。われわれは、何をどう努力しても相手の意図を見通すことができない。相手がいかに熱弁をふるって語っても、出てくる言葉が本当にその人の熱意や意図を反映しているのかどうかを確かめるすべは、神ではない私たちには与えられていない。

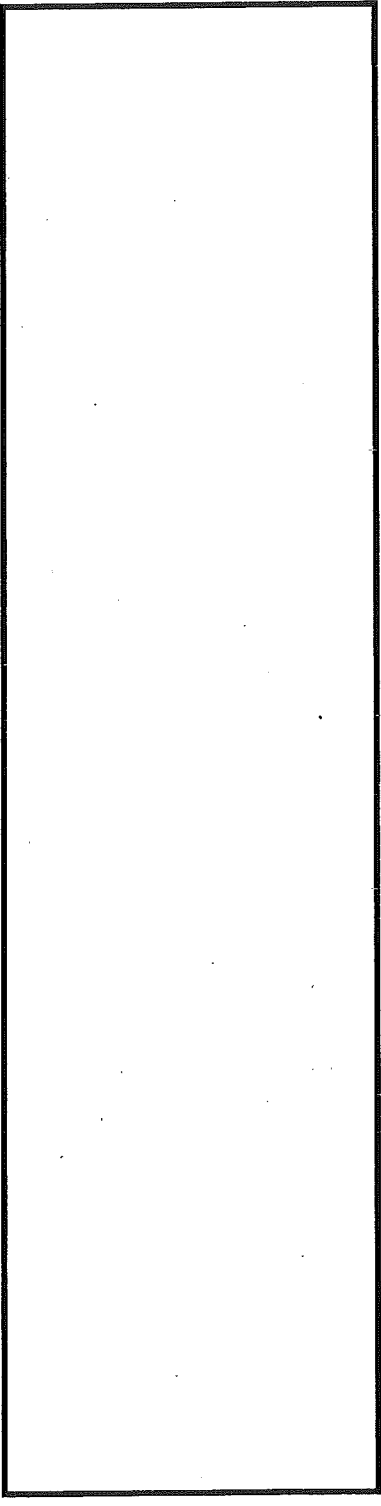
(石井淳蔵『ビジネス・インサイダー創造の知とは何か』(岩波新書・二〇〇九年)より一部抜粋)

【次のページに続く】

【前のページの続き】

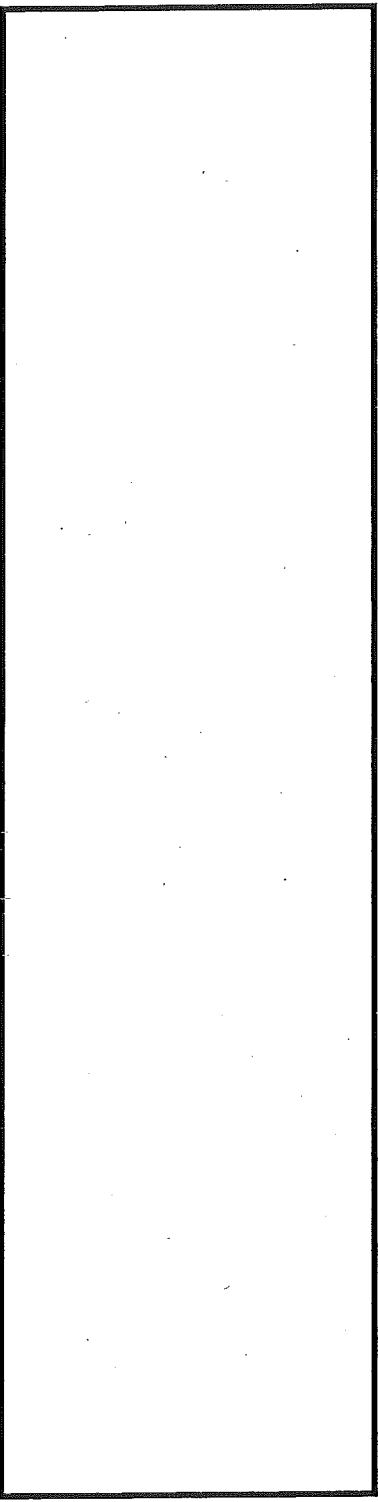
問一 A～Dの文は、それぞれ問題文の趣旨とは違う点があります。どのような点が違っているのか、説明しなさい。

A 伝統的なコミュニケーション概念では、コミュニケーションは話し手と受け手の間に共通するコードがないままに行われる。

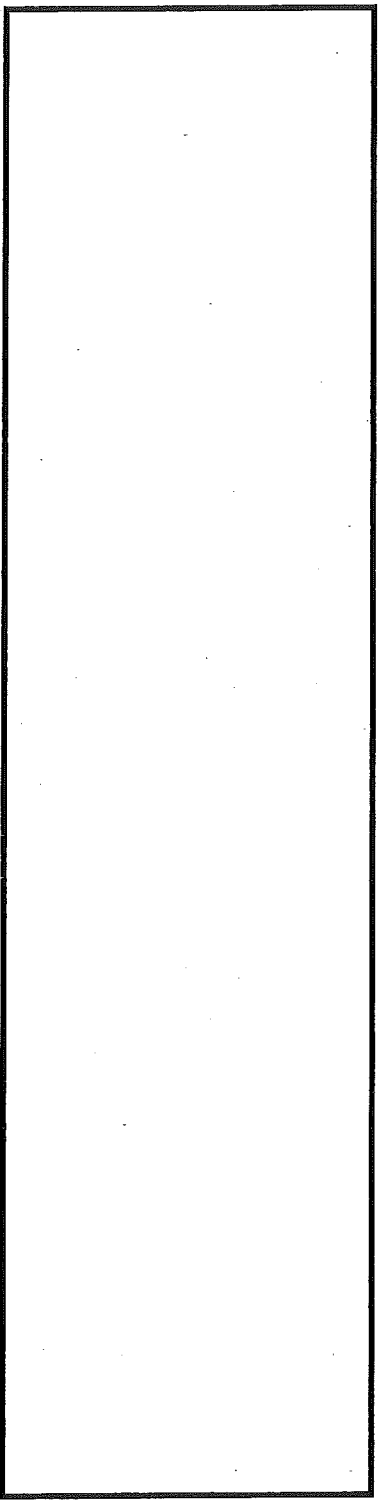


以下、B～Dは新しいコミュニケーション概念に関する記述です。

B コミュニケーション行為は、意図と伝達の2要素で構成され、そこに解釈を挟む余地はない。



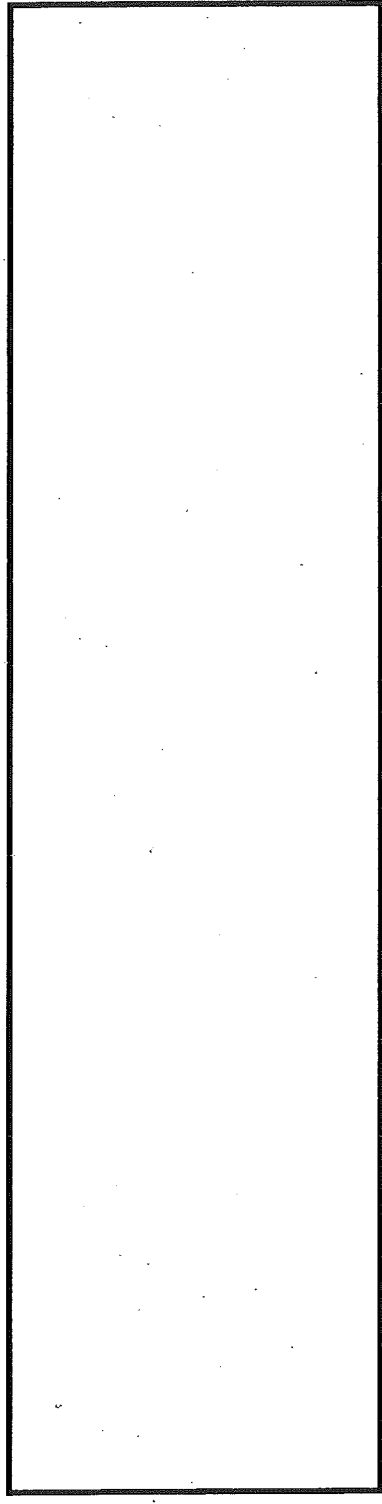
C 誤解のないコミュニケーションをするためには、お互いを気遣うことが重要である。



【次のページに続く】

【前のページの続き】

D 話し手側の意図を正確に伝えることができなければ、コミュニケーションをとる意味がない。



問二 問題文の要旨を、別紙原稿用紙に、三〇〇～四〇〇字でまとめなさい。

【以上】